

2024-12

学会通信

令和06年12月27日

NO.99

工業経営研究学会

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

会長就任のご挨拶

中瀬 哲史 (大阪公立大学)

工業経営研究学会第12期会長をおつとめされた、北海学園大学大平義隆先生の後を継いで、この度、第13期会長を拝命いたしました私は、大阪公立大学に勤務します中瀬哲史と申します。歴史ある工業経営研究学会会長ということで、大変光栄に感じるとともに、かなりの重圧を感じております。さて、まだまだ社会的には大変ではありますが、コロナ禍からは立ち直りつつある状況です。そうした動きを受け、社会的な活動が、コロナ禍並みか、それ以上に活発になっています。そうした中で、私たち工業経営研究学会の活動は、ますます重要になっているように考えています。

と申しますのも、何よりも、私ども工業経営研究学会の主たる研究対象である製造業、いわゆるモノづくりは、日本の国づくり、そして地域づくりに、しかも今後の発展にとって不可欠だと考えるからです。製造業（モノづくり）の占める割合は雇用の確保、経済発展等において量的にも、内容的にも重要であるからです。

私は、大阪府東大阪市の出身です。東大阪市は1967（昭和42）年に布施市、河内市、枚岡市が合併して誕生しましたが、私は3市合併前の1963（昭和38）年に旧布施市衣摺（きずり）で生まれ、大阪市立大学4年生時に奈良県生駒市に家族で引っ越しするまで当地にいました。当地は、現在の「モノづくりのまち」東大阪にもつながる地域で、私の自宅の隣には父方の祖父母、叔父さん家族が住み、その叔父さんはすぐ横に工場（こうば）をもって昆布屋さんの箱を作っていました。私の自宅の近所にはねじをつくっている自宅兼工場がありました。このように近所には住宅地が広がっていましたが、中小零細企業も混在していて、モノづくりの音が響くにぎやかなで、おもしろいところでした。残念ながら現在はかなり静かな住宅地となっているようです。

少し郷愁もありますが、それでも日本は縮小しつつあるとはいえ、製造業（ものづくり）の基盤をバージョンを上げながらも持ち続けており、この利点を生かすことが重要だと考えます。そして私ども工業経営研究学会は我が国のみならず、ひいては世界の有するモノづくりの状況に深くかかわってきましたし、これからも関わっていきたいと考えます。そこに私は本学会のおもしろさを感じています。

以上のような思いから、これからの3年間においては、改めてモノづくりの現場に出かけ、その現場で議論して行きたい、その際モノづくりの最近の動きであるDX、GXとも真正面から取り組んでみたい、と考えています。さしずめ「新たな動きを示すモノづくり現場との“格闘”」というところでしょうか。

私は、モノづくりについてまだまだ学ばなければならないレベルではありますが、この工業経営研究学会を、大変優秀で頼もしい理事、幹事、委員の皆さま、そして会員の皆さまとともに、今以上にもおもしろいものにして、モノづくりを通じて、日本、世界に対して貢献していくことができればと思います。3年間、どうぞよろしくお願いいたします。

第 39 回全国大会開催報告

第 39 回 全国大会実行委員長
中島 洋行

工業経営研究学会第 39 回全国大会は、2024 年 8 月 30 日（金）から 9 月 1 日（日）にかけて、明星大学にて開催されました。2015 年以来、10 年ぶりの東京での対面開催となり、5 年ぶりに懇親会も開催することから、60 名を超える会員から事前に大会参加登録をいただきました。しかしながら、台風 10 号の影響によって東海道山陽新幹線などが 8 月 29 日夕方から長期間にわたり運休した影響もあり、報告者、司会者、コメンテーターが会場に到達できない事態も多数発生したことから、対面と Zoom のハイブリッド形式での開催に急きょ変更し、異例の全国大会となりました。

8 月 30 日（金）午後には、株式会社ナガセ（東京都武蔵村山市）のご協力の下、工場見学会を開催いたしました。株式会社ナガセは金属加工の中でも、特に「へら絞り」加工に強みを持っており、へら絞りの作業工程はもちろんのこと、その他の様々な工程につきましても、同社の長瀬雄一郎社長自ら大変熱心にご説明いただきながら、じっくりと見学させていただきました。工場見学後の質疑応答においても、様々な質問が出て、大変充実した工場見学会となりました。

8 月 31 日（土）は、午前中に統一論題報告、午後に会員総会、統一論題シンポジウム、長瀬社長による特別講演、懇親会をそれぞれ開催いたしました。

午前の統一論題報告では、第 39 回全国大会のテーマである「ガバナンスとモノづくり—将来を見据えたモノづくり経営—」の下で、最初に大平義隆氏（北海学園大学）による基調講演として「現在の、ガバナンスとモノづくり経営、そこに何が見えるのか」と題する講演が行われました。続いて、第 1 報告として井上尚之氏（大和大学）による「東芝のガバナンス崩壊が招いた上場廃止—欧米のアクティビストの餌食になった東芝—」、第 2 報告として風間信隆氏（明治大学）による「ドイツのモノづくりとガバナンス—過去・現在・未来—」、第 3 報告として税所哲郎氏（国土舘大学・長崎大学）による「ソフトウェアにおけるモノづくりとガバナンス」の各報告が行われました。

午後は中瀬哲史氏（大阪公立大学）の司会により統一論題シンポジウムが開催されました。まず、統一論題第 1 報告のコメンテーターとして西村成弘氏（神戸大学）、第 2 報告のコメンテーターとして藤谷麻菜氏（広島経済大学）、第 3 報告のコメンテーターとして柴田喜悠氏（同志社大学）がそれぞれコメントしたうえで、統一論題の各報告者がリプライしました。その後、中瀬氏の司会により、井上氏・風間氏・税所氏をパネリストとして討論が展開されるとともに、フロアからの質疑応答も実施され、ガバナンスとモノづくりをテーマとして熱い議論が展開されました。最後に、大平氏による統一論題の「まとめ」が行われて、2 時間にわたる統一論題シンポジウムは幕を閉じました。

統一論題シンポジウムに続き、8 月 30 日の工場見学先である株式会社ナガセの長瀬雄一郎代表取締役社長による特別講演「東京のへら絞り企業から見る今」が、長谷川英伸氏（日本大学）の司会のもとに行われました。へら絞りの作業工程の動画を交えながら、前日の工場見学会に参加していない会員にも、へら絞りの技術が理解しやすいようにご講演をいただきました。特別講演の最後で、株式会社ナガセに「工業経営賞」を贈呈する旨が大平学会長より発表されました。

5 年ぶりの開催となりました懇親会には、約 30 名の会員が参加し、明星大学経営学部の若木宏一学部長による開会挨拶、第 10 期会長の風間信隆氏による乾杯の発声により、懇親会が開始されました。その後の歓談では、長瀬社長にもご参加いただきまして、会員間相互の交流が図られました。第 40 回全国大

会開催校である北海道科学大学の坂井俊文氏による次期開催校挨拶、劉仁傑氏（台湾・東海大学）の中締めを経て、名残惜しみつつも懇親会は閉会となりました。

9月1日（日）は、グローバリゼーション研究分科会と、環境経営学研究分科会による分科会報告の後に、3会場に分かれて15組の自由論題報告が行われました。各会場では、工業経営について、様々な切り口から研究報告がなされて、報告者、司会者、フロアの間で活発な議論が展開されました。なお、自由論題の各報告の司会者、報告者、報告タイトルにつきましては、「全国大会報告概要」をご覧ください。

第39回全国大会は対面とZoomによるハイブリッド開催となりましたが、天候が不安定な中、明星大学の大会会場には8月31日と9月1日の2日間で40名以上の会員の皆様にお越しいただきました。Zoomでご参加いただいた皆様も加えると、60名以上の会員の皆様に大会にご参加いただきました。各会場で活発な議論が交わされて、懇親会での会員間の交流も図ることができまして、無事にすべてのプログラムを終えることができました。若干の不手際もございましたが、第39回全国大会は成功したと感じております。ご参加いただきました会員の皆様、各報告でご報告いただいた会員の皆様、司会やコメンテーターをお引き受けいただいた会員の皆様、大会実行委員として大会開催をご支援いただいた大会実行委員会の皆様には、あらためましてこの場を借りて御礼申し上げます。

投稿論文募集のお知らせ（学会誌 第39巻 第2号）

学会誌編集委員長

田中 史人

2025年9月末発行予定の第39巻第2号への投稿論文を募集します。募集期間と原稿送付先は、次の通りです。

■募集期間

2024年11月1日～2025年4月末日まで【必着・厳守】

論文審査は、募集締め切り後にまとめて実施します。

■原稿送付先（「学会誌編集委員会」宛）

役員改選のため原稿の送付先はまだ決まっておりません。新編集委員会の設置の後、改めて連絡いたします。

なお送付いただくのは論文の原稿（WordおよびPDFのデータファイル）と申請書の3つのファイルです。

■学会電子化に伴う変更について

第38巻第1・2合併号より学会誌が電子化され、それに伴い、以下の諸規定が変更となっておりますので、ご確認、ご了承いただいた上でご投稿をお願いいたします。

※工業経営研究学会内規

第10条（7）学会誌は並行して電子化を行い、J-Stageを利用する。公開は発行から半年後とする。

第17条 学会誌が電子化されるに際し、学会誌掲載の論文の著作権は本学会に帰属する。

※『工業経営研究』投稿規定

第10条 本会は機関誌『工業経営研究』を電子化する。本誌への投稿者は、掲載された論文が半年後に電子化・公開されることを了承したものとする。

【投稿上の注意】（よくお読みいただいたうえ、ご投稿ください。）

- ・招待論文を除き、論文はすべて査読付となります。
- ・ホームページ掲載のテンプレートにしたがってご執筆いただきます。テンプレートは最新のものをダウンロードしてお使いください。またテンプレートの他、**投稿規定・執筆細則・投稿申請書**は、下記の学会ホームページに掲載してあります。**よくお読みいただき、ご投稿ください。**

http://asimj.jp/wordpress/?page_id=1307

- ・アブストラクトは200ワード以内、キーワードは5ワードまで記入をしてください。
- ・論文原稿ファイル（WordとPdf）の**書式が正しく、崩れていないこと**をご確認のうえご投稿をお願いいたします。
- ・掲載が決定し、最終原稿を投稿していただいたあとは**校正はありません**ので、最終原稿は修正を必要としない**完成原稿での投稿**をお願いいたします。

以上につきまして、ご質問等がございましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

なお以下の**メールアドレスは論文の投稿先ではありません**ので、くれぐれもご注意ください。

fumito@kokushikan.ac.jp（国士舘大学 田中央人）

「学会賞・研究奨励賞・若手研究者賞」候補作品の募集

会員表彰選考審査委員会委員長
藤野 真

本学会「内規」第14条により、2025年度の学会賞（年齢制限なし）・研究奨励賞（31歳以上39歳まで[10月1日現在]）・若手研究者賞（30歳以下[刊行時点]）の候補作品の推薦を、2025年4月末日までに藤野真（会員表彰選考審査委員会委員長）または学会事務局宛にお知らせください。自薦・他薦を問いません。なお、会員表彰推薦書の様式は学会ホームページに掲載されているものをダウンロードしてご利用ください。

第40回全国大会のお知らせ

大会プログラム委員長
牧 良明

第40回全国大会は、北海道科学大学にて行う予定です。大会開催日、理事会の日程は確定次第、学会ホームページにて掲載いたします。

第13期 理事会・役員組織

(任期 2024年11月21日～2027年9月総会日)

【会長】 中瀬哲史 (大阪公立大学)

【副会長】 秋野晶二 (立教大学)、木野龍太郎 (福井県立大学)

【学会監事】 村上喜郁 (追手門学院大学)、【会計監事】 黒澤敏朗

【理事】 島内高太 (拓殖大学)、田中史人 (国土舘大学)、中山健一郎 (札幌大学)、中島洋行 (明星大学)、宇山翠 (岐阜大学)、藤野真 (福岡大学)、牧良明 (大阪公立大学)、*張書文 (台湾東海大学)、*中村真悟 (立命舘大学)、*西村成弘 (神戸大学)、*藤原篤志 (駒澤大学)

*は会長指名理事

【学会誌編集委員会】

委員長：田中史人、担当理事：秋野晶二、西村成弘、委員：池田武俊 (千葉商科大学)

【論文審査運営委員会】

委員長：島内高太、担当理事：宇山翠、藤野真、委員：布施雄治 (千葉商科大学)

【会員表彰選考審査委員会】

委員長：藤野真

【規定改定、学会活動記録委員会】

委員長：藤原篤志、担当理事：中山健一郎

【大会プログラム委員会】

委員長：牧良明、担当理事：中山健一郎、西村成弘、委員：坂井俊文 (北海道科学大学)

【産学交流委員会】

委員長：中瀬哲史、担当理事：木野龍太郎、張書文

【学会ホームページ・関連学会調査委員会】

委員長：中島洋行、委員：牧良明

【学会事務局】

事務局長：中村真悟、担当理事：中島洋行

【経営関連学会協議会】

評議員：宇山翠、委員：池田武俊

【学会幹事】

- ・学会誌編集委員会担当
- ・学会会計担当
- ・学会通信担当
- ・学会事務局支援担当：柴田喜悠 (同志社大学)、村上玲奈 (立命舘大学大学院)

- ・理事会議事録担当
- ・学会ホームページ担当

*「大会プログラム委員会」は、現在のところ学会規定、内規には記されていません。しかし第12期においては、大平会長からの指示で設けられ、会場校と協力して大変興味深い全国大会が開催されました。第13期では、大会プログラム委員会を学会規定、内規に位置づけるべく議論を進めてまいります。ひとまずは具体的な大会プログラムを考えていくために、大会プログラム委員会を設けて活動していただこうと考えています。

第12期2024年度第39回総会報告

日 時：2024年8月31日（土）13時45分～14時45分

場 所：明星大学とZoom

【報告事項】

【各委員会】

1. 論文審査運営委員会活動（中瀬）

- ・論文審査運営委員会活動について以下の報告がなされた。
- ・第38巻第1号は、掲載論文がなく発行しなかった。
- ・現在第38巻第1・2号合併号への投稿論文についての論文審査を順調に実施している。

2. 学会誌編集状況（秋野）（事務局代読）

- ・学会誌編集状況について以下の報告がなされた。
- ・38巻1・2号は、3本の査読論文が審査を通過したため、10月中旬ごろまでには刊行の予定である。
- ・J-Stageへの掲載は、半年後の来年3月末を予定している。
- ・39巻1号への投稿論文は、10月末日締切で募集している。
- ・第12期編集委員会の業務は、38巻1・2号の発行まで継続する。

3. 会員表彰選考審査委員会（中川）（事務局代読）

- ・会員表彰選考審査委員会からの報告が以下のようなされた。
- ・本年度は、学会賞、研究奨励賞、若手研究者賞のいずれについても、審査対象となる研究業績が推薦されず、該当者はいなかった。したがって本年度は、当委員会としては、審査のための検討を行っていない。

【部会・研究部会】

1. 西日本部会（中瀬）

- ・7月19日に工場見学と7月20日に研究会が行われたことについて報告がなされた。

2. 東日本部会（中島）

- ・3月27日に工場見学と研究会が行われたことについて報告がなされた。
- ・6月8日にグローバルゼーション研究分科会と共催で、ワーキングペーパー発表会を実施した。

3. グローバリゼーション研究分科会（那須野）

- ・6月8日に、ワーキングペーパー発表会を実施した（共催東日本部会）
- ・8月31日にワーキングペーパーの発行、ベトナム視察の活動について報告がなされた。
- ・カイベトナム社へ生産経営賞を贈呈することが報告された。

4. 北海道部会（天笠）

- ・2023年12月9日に北海道部会が開催されたことについて報告がなされた。

【経営関連学会協議会】（池田）

- ・経営関連学会協議会の活動について報告がなされた。

【事務局】（李）

- ・会員数について以下の報告がなされた。
- ・正会員190人、院生会員28人、シニア会員8人、新規入会者5人、退会者9人
- ・学会通信97号と学会通信98号の発行済について報告がなされた。
- ・2024年11月ごろに学会通信99号を発行する予定であることが報告された。
- ・理事会の開催状況について以下の報告がなされた。
- ・対面理事会3回、Zoom理事会1回、メール理事会10回

【会長】（大平）

- ・次回の全国大会は北海道科学大学で開催される予定であることが報告された。

【審議事項】

1. 郵送選挙（大平）

- ・会長大平より、既に理事会で了承された郵送選挙について、以下のとおり報告がなされ、会員より承認がなされた。
- ・台風10号の影響により対面参加の会員が少ないと想定されるため、今回の選挙を対面選挙から郵送選挙に変更する。

2. 選挙管理委員会（大平）

- ・会長大平より、既に理事会で了承された選挙管理委員会について、以下のとおり報告がなされ、会員より承認がなされた。
- ・選挙委員会委員長：那須野公人
- ・選挙委員会委員：池田武俊、藤原篤志、天笠道裕

3. 第39回全国大会中島実行委員長より、既に理事会で了承された第39回全国大会開催方法、大会懇親会の開催方法、懇親会費の取り扱いについて、以下のとおり報告がなされ、会員からの承認も行われた。

- ・第39回全国大会開催方法について、対面とZoomのハイブリッド開催へ変更する。
- ・理由：台風10号の影響により、東海道山陽新幹線が長期間にわたり運転見合わせとなっているため、司会者・報告者・コメンテーターの先生が明星大学に到達できない事態が発生している。

・台風 10 号の影響により対面参加が困難になった先生方が多くいらっしゃることから、料理が大量に余ってしまう事態が想定される。料理の大量廃棄を回避するために、8 月 31 日の大会懇親会を対面参加いただいた全会員へ無料開放とする。

・懇親会費の取り扱いについては、第 39 回全国大会に限り、懇親会費を事前に振り込んでいた会員が台風等の影響により大会参加が困難となり、懇親会にも参加できなかった場合には、懇親会費の返還を希望する会員には事前に振り込んだ懇親会費を全国大会補助費から全額返金する。

4. 工業経営賞の表彰（中島）

・第 39 回全国大会中島実行委員長より、既に理事会で了承された工場見学先（株式会社ナガセ様）への工業経営賞贈呈について報告がなされ、会員からの承認も行われた。

5. 2023 年度会計決算（中島）（藤原）

・中島会計担当理事より、配布資料に基づき、決算書の収入と支出、および貸借対照表の借方と貸方の金額について報告がなされた。

・収入の部の決算額が 6,000,399 円であることが報告された。

・支出の部の決算額が 1,534,367 円であること、次期繰越金が 4,466,032 円となることが報告された。

・藤原会計監事より、決算の監査報告に関して、通帳や領収書を確認し、間違いがないことが報告された。

・以上の会計決算について、会員からの承認がなされた。

6. 2024 年度会計予算案（中島）

・中島会計担当理事より、配布資料に基づき、2024 年度会計予算案について報告がなされた。

・前期収入の部の予算額が 1,547,010 円であり、前期繰越金が 4,466,032 円であり、合計 6,013,042 円であることが報告された。

・支出の部の予算額が 2,130,000 円であり、次期繰越金が 3,883,042 円であることが報告された。

・以上の予算の内容について、会員の承認がなされた。

会員異動の報告（2024. 6～2024. 11）

【入会者】（敬称略）

「正会員」 稲葉 哲（追手門学院大学）

「院生会員」 張 穎琪（慶應義塾大学 経済学研究科）

【退会者】（敬称略）

「正会員」 寺島 和夫

田中 望（東海学園大学）

阿辻 茂夫（関西大学名誉教授）

黎 立仁（国立台中科技大学大学）

今田 治（立命館大学名誉教授）

小川 泰造（一般社団法人大阪府経営合理化協会）

メール登録・更新のお願い

現在、学会通信をはじめ学会に関する情報はメール配信を基本としております。9割方の会員の皆さまはメール配信で情報を届けることが出来ております。また、2022年9月8日の総会で承認されたように、現在、学会誌の電子化への移行を準備しております。

今後、会員メーリングリストがますます重要な連絡方法になるため、メールアドレスを登録していない会員の皆様、登録しているメールアドレスが失効している会員の皆様は、改めてメールアドレスの登録をお願いする次第です。マイページにアクセスし会員情報を変更していただくか、下記の要領で工業経営研究学会会員窓口 (asimj-post@as.bunken.co.jp) へ連絡いただきますようお願い致します。

- ・送信先メールアドレス : asimj-post@as.bunken.co.jp
- ・件名 : 登録メールアドレス
- ・メール本文 : 会員氏名および登録メールアドレス

異動時の会員情報更新のお願い

所属先、住所、メールアドレス等、会員情報に変更が生じた場合、逐次更新して頂きますようお願い致します。

学会ホームページに会員専用ページ (マイページ) を公開しています。会員情報の確認・変更や会費納入状況の確認等をWEBから行うことができます。学会ホームページの「マイページ (会員専用ページ)」からログインし、変更が必要な情報は逐次更新お願いいたします。なお、ログインに必要な会員番号とパスワードは、会費請求時に記載されている会員専用のログイン情報をご確認ください。

工業経営研究学会会員窓口 (〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター、Tel : 03-6824-9373 Fax : 03-5227-8631、E-mail : asimj-post@as.bunken.co.jp) にご連絡頂いても結構です。

工業経営研究学会 学会通信 99号 (24-12) 2024.12.27

発行人 中瀬 哲史 編集担当 中村 真悟

学会事務局 立命館大学経営学部 中村真悟研究室内

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学経営学部

Tel: 072-665-2090

E-Mail: n-shingo@fc.ritsumeit.ac.jp、HP: http://asimj.jp/

工業経営研究学会 会員窓口 (会費納入、住所管理、学会通信の郵送など) 担当

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

Tel : 03-6824-9373 Fax : 03-5227-8631 E-mail : asimj-post@as.bunken.co.jp

※受付時間 平日 9:00~12:00、13:00~17:00 (土日祝を除く)